



今回のガイド
ほしの ひろし
星野 博さん

手向地区の宿坊「養清坊」の18代目
当主。羽黒町観光協会会長や山伏の
「駈(かり)」の役者も務める。

2つの寺院が物語る
「羽黒山の歴史」

羽黒山といえばまず思い浮かぶのが、山頂の「三神合祭殿」と「五重塔」。神社のイメージが強いが、今回は手向地区に残る2つの寺院からその歴史と文化を探った。2つの寺院とは金剛樹院と正善院。明治の神仏分離・廃仏毀釈など幾多の困難に揉まれながらも幸いにも佛寺として残された寺院だという。

スタートはガイドの星野さんが営む宿坊の「養清坊」。ここから横道に入ると、突き当たりが金剛樹院。本堂を参拝後、天有別当が造園したといわれる庭園を案内していただいた。阿弥陀来迎図を模した3つの岩の上に、伽羅の大木が雲海のごとく左右に枝を広げている。「推定樹齢は400年です」という島津玄真住職の言葉に思わず感嘆の声をあげた。裏山にある観音堂には数々の花や動物の描かれた天井画の中に1枚、水辺の風景画が混ざっていた。隅田川を描いた江戸時代の油絵で、非常に珍しいものだという。庭先には、か

つて地元の人が水くみに使っていた金剛清水が湧き出ている。「昔は亡くなる前の魂が、最後においしい水を求めてこの清水へ来たといわれています」。現在は金剛樹院の中でのみ使われている。事前に予約すればこの名水で仕込んだ、季節の精進料理が味わえるそうだ。

江戸を一世風靡した
聖女「お竹さん」

次なる目的地の正善院黄金堂へと、郵便局の坂を上る。振り返ると、土地が大きくくぼんでいるのが見て取れた。「この辺りは昔、池になっていて、現在も『池ノ仲』など地名に残っているんです」と星野さん。えっ？と驚くと「紀元前の庄内は大鳥居より下が海で大地震による地殻変動で平野になったんですよ」と教えてくれた。

黄金堂に到着すると、50年ぶりの修復を終えたばかりという。本堂の横にあるお堂の屋根もピカピカ輝き、目を引いた。ここは「お竹大日堂」。お竹さんというのは出羽山麓出身で江戸に奉



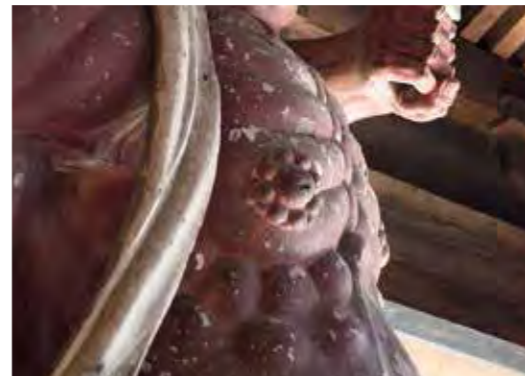
晴れた日には黄金堂の境内から月山を一望。この場所を選んで建てた理由が分かる。



さまざまなモチーフが描かれた観音堂の天井絵。写真中央の青い絵が江戸時代の油絵だそう。



江戸時代の黄金堂周辺の様子。地図中の鳥居は昭和37年に随神門前へと移設された。



第11回 庄内みどころ 再発見
じっくり羽黒
門前町探訪

Supported by 庄内広域行政組合



修験の山として栄えてきた羽黒山の信仰を連綿と支えてきた、山麓・手向地区。宿坊街を歩き、その歴史と文化を探りました。



耳より羽黒かわら版

冬ならではのアクティビティも。
魅力満点の羽黒山。



羽黒山スキー場

月山の雄大な景観を正面に望むファミリー向けのゲレンデ。スキー・スノーボードのレンタルやスクールも完備。
[営業期間]2016年 3/6(日)まで
開 9:00~16:00
※2月、3月の土・日・祝日は16:30まで営業
※3/1(火)~4(金)は休業



ナイスバディなお嬢さん



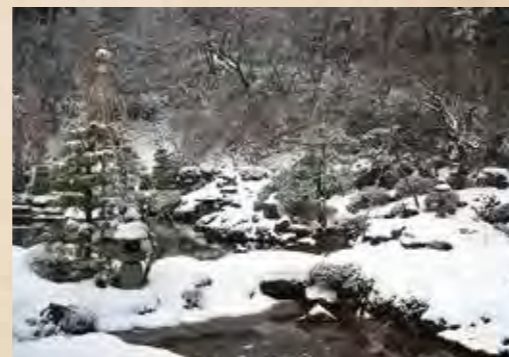
爪先チクチク



冬も裸で頑張ります

スノーシュートレッキング

スノーシューをはいて羽黒山を歩こう! 2/20(土)にはナイトハイキングも開催。(下記日程以外も「月山ビジターセンター」開館日にはスノーシュー体験ができます)
開 1/31・2/7・14・28・3/6・12・19・27
料 1,200円(2/14・3/6・12は昼食付2,500円)
開 ☎0235-62-4321 月山ビジターセンター(鶴岡市羽黒町手向字羽黒山147-5)
休 月曜、年末年始(12/29~1/3)



玉川寺

鎌倉時代の1251年に開かれた曹洞宗の寺院。美しい庭園は1987年に国の文化財名勝に指定されている。
開 9:00~17:00(4月~10月) / 9:00~16:00(11月~3月)
料 大人400円、小中学生200円
開 鶴岡市羽黒町玉川35
開 ☎0235-62-2746



出羽三山 精進料理プロジェクト

2012年、羽黒町観光協会の有志により発足。山岳信仰・山岳修験の聖地である出羽三山に古より伝承されてきた精進料理を中心に据え、その継承と伝播、精進料理を活かした観光振興に取り組んでいる。
開 ☎0235-62-4727(羽黒町観光協会)

いでは文化記念館

出羽三山の歴史や文化、山岳信仰や修験道に関する展示やセミナーを開催。法螺貝の試吹もできる。企画展「お山がつなぐもの 来山文学者から探る出羽三山」が4/18(月)まで開催中。
開 9:00~16:30(4月~11月) / 9:30~16:00(12月~3月)
休 火曜(7月、8月およびゴールデンウィーク期間は無休)
年 年末年始(12/29~1/3)
料 大人400円、高校大学生300円、小中学生200円
開 鶴岡市羽黒町手向字学院主南72
開 ☎0235-62-4727



かつて羽黒山本堂に納められていた神仏像。廃仏毀釈で損壊した跡が残っている。



公に出ていた、実在する女性の名前。徳の高さから周囲の尊敬を集め、死後、奉公先の主人によって東京・港区の心光院と、ここ黄金堂境内に仏として祀られたという。貧しい身分から仏になったお竹さんの逸話は江戸八百八町に広まり、歌舞伎、浄瑠璃、講談などでも上演され多くの方々が熱心に参拝に訪れたそう。お竹さんのように尊敬される人になれるよう、私も手を合わせた。

民衆の信仰の場、山麓の黄金堂

黄金堂は、山頂の「大金堂(旧寂光寺金堂・現在の三神合祭殿)」に対して麓の「小金堂」と呼ばれ、羽黒山行事の際に重要な役割を担っていた。「羽黒山をお参りする上で黄金堂は一番初めの拝所とされ、この後に五重塔、山頂の本堂にお参りするのが今も変わらない正式な参拝ルートです」と島津慈道住職。堂内にある江戸時代の地図を見ると、なるほど黄金堂周辺に多くのお堂が集まり賑わっていた

のが分かる。「羽黒山で行事がある時、当番じゃない山伏たちは黄金堂に集まって、山頂と同じことを行いました。ここに来れば山頂と同じご利益が得られたんです」。年末の松例祭も昭和25年までは女性の立ち入りが禁じられていたため、女性は黄金堂を参拝していたという。「いわば当時のパブリックビューポイントです」という説明に、なるほどと納得した。お堂の中に多くの神仏像があり、驚いた。「ここには、かつて羽黒山本堂や五重塔に祀られていた御本尊がすべて揃っています」。ご利益たっぷり嬉しい反面、いずれも明治時代に廃仏毀釈で居場所を失った神仏像たちだと聞いて、少し切ない気持ちになった。それでも、今日拝むことができるのは、何とか寺院や神仏像を守ろうとした先人たちの努力があったからなのだ。今度羽黒山を訪れる際は、昔のように「黄金堂から五重塔、山頂」というルートを辿り、当時の賑わいに想いを巡らせてはいかがだろうか。

編集・文 松本典子 写真 間真由美
協力・写真提供 羽黒町観光協会
いでは文化記念館



「十万」の家紋は酒田城代甘糟備後守景継のもの。当時庄内の支配を任された直江兼統の了承を得て黄金堂の改修に努めた。